

訪問でおこなうこと

安心して食事を楽しめるように、食べ物の工夫・姿勢の調整や食べ方・食べさせ方のアドバイス

疾病に対応した食生活の支援

食事摂取量と栄養状態のチェック

調理指導・買い物指導・ヘルパー指導

状態に合わせた食事内容・形態などの指導

栄養補助食品、介護用食品、自助食器等の紹介

その他療養生活に関わる様々な相談

訪問でよくある事



好きな物しか食べない



調理器具が少ない



食材がない

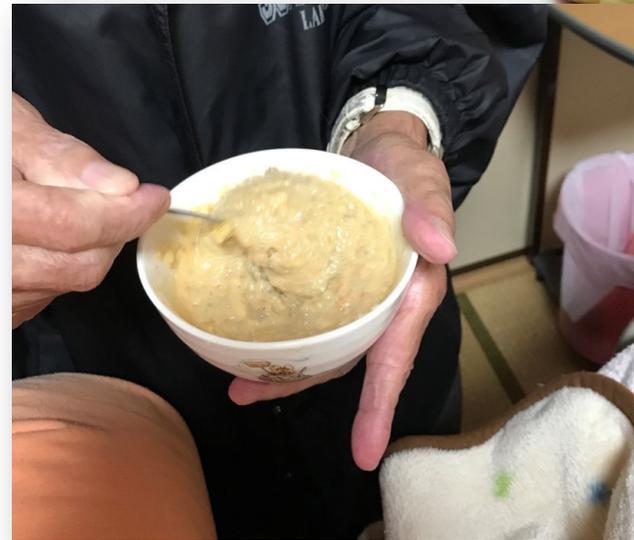


糖質に偏る



165Kcal





認知症

軟らかいもの
しか食べない

症例

パーキンソン病とうつをあわせもつ患者の訪問栄養食事指導

女性 78歳 要支援1

病名 高血圧 うつ パーキンソン病

家族構成 夫と2人暮らし 近所に住む次男・次嫁も協力的

訪問のきっかけ

地域リハビリテーション支援事業として訪問依頼→地域ケア会議→居宅療養管理指導で

訪問栄養食事指導を継続する

訪問栄養食事指導介入当初は食べられないことが多く、痩せが進行していた。外来に点滴に行っていた。抗精神薬の内服も多かった。最近は調子に波はあるものの、比較的食事を摂取できるようになり、台所へ立つことも増えている。
夫ととても仲が良い。

訪問栄養食事指導の経過報告

(初回) (40分～1時間)

指導した内容

- 自己紹介 訪問栄養食事指導依頼の経緯 (CMからの説明も)
- 本人やご家族の困っていることの聞き取り
- Drからどういう指示がきているか。どう連携していくかのなどの説明
- 現在入っているサービスや多職種との関わりなど
- 現状を聞いてのアドバイス(食べやすい食材や食べ方などの説明など)

得られた効果

- 本人もご主人も意欲がある
- 主治医を信頼している
- 病識に乏しい 現状の理解ができていない
- 訪問看護・リハビリが入っている
- 食事は、口の中でまとめて飲み込みやすいものが多く、コロツケやマカロニサラダなど糖質の多い食品が中心
- 訪問中、ポン菓子を食べてもらった。しっかりと咀嚼ができ、嚥下にも問題は見られなかった。ただし、食べ物を口の中に次々と入れる傾向があった。
- 歯科衛生士介入の提案(CMと共に)

訪問栄養食事指導の経過報告

二回目以降から現在

歯科衛生士による評価

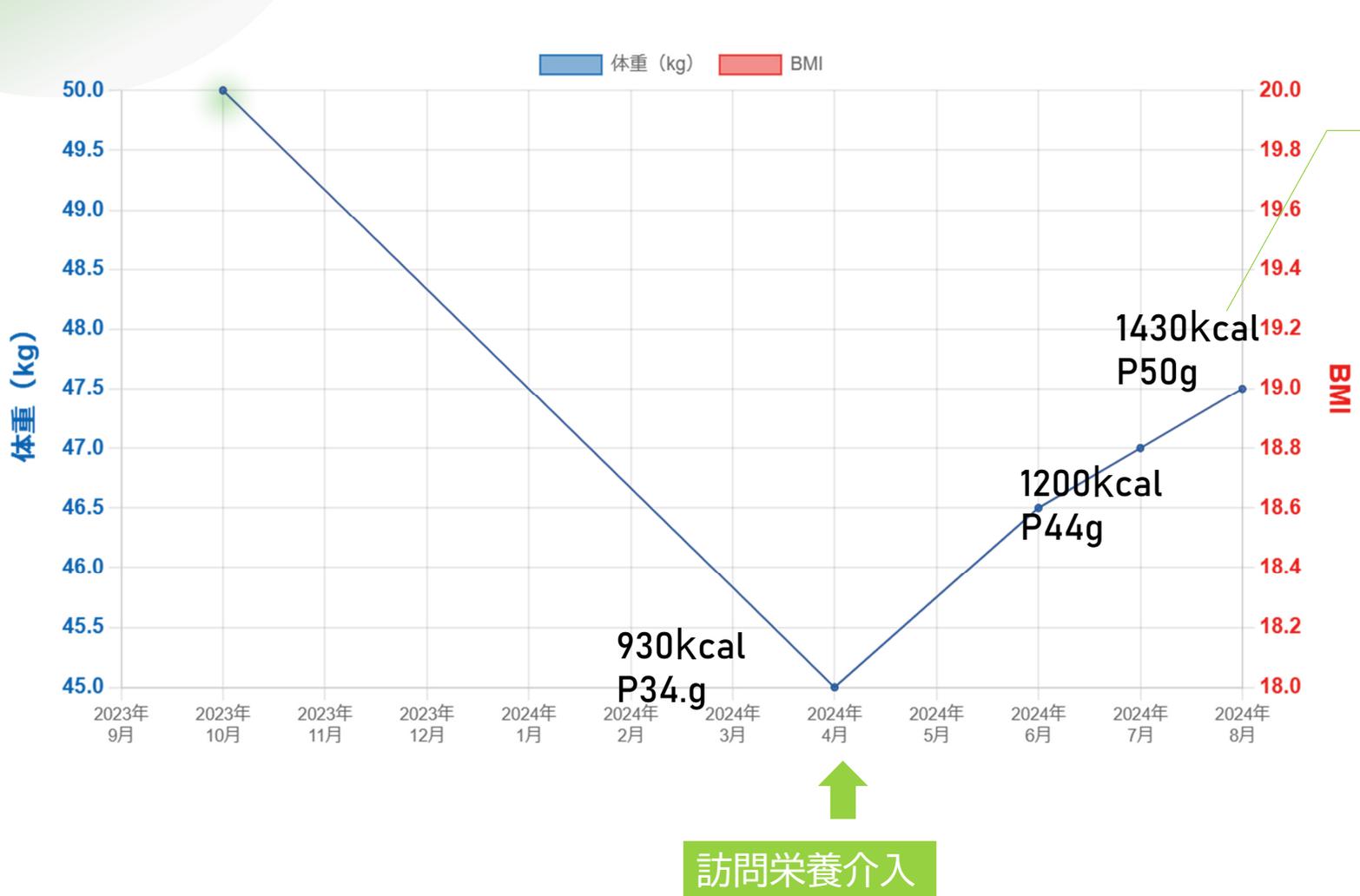
- 口腔内清掃はできている
- 咀嚼力の低下はみられるが、飲み込みは問題なし
- パーキンソン病の影響により、ため込みなどはみられるが介護者の声掛けなどでできるようになる
- 口腔体操、食前によく動かすことでもう少し食事をスムーズに食べられるようになる

摂取エネルギー増加の提案

- 主治医にエンシュアリキッドの処方希望
- お粥⇒軟飯への変更
- エネルギー量アップのメニュー提案
- 宅配弁当の利用
- おやつ工夫
- 調理指導



訪問栄養食事指導の経過報告



朝：
 ピザトースト コーヒー 牛乳ヨーグルト 栄養剤1/2缶

昼：
 軟飯100g 豆腐50g
 なすびの煮物 温泉卵1個
 きゅうりの浅漬け

間食：
 シュークリーム1個
 栄養剤1/2缶

夕：
 焼き飯
 (ご飯100g・ツナ缶1/2缶・卵1/2個・ねぎ)
 きゅうりの浅漬け

訪問栄養食事指導の経過報告

本人の変化

- 表情の変化
- 台所に立つことが増えたことが喜び
- 病気について、理解しようと努め、努力がみられるようになった
- 言葉が増えた

ご家族の変化

- ご主人が食事の用意に困ることが減った
- 無理強いをしないようになった
- 子どもさん達の理解が進んだ
- 受診同行の際に医師などに伝える言葉が変わってきた

まとめ

- 本日の講義を通じて、訪問管理栄養士として地域住民の健康に貢献しようと奮闘している様子を感じ取っていただけたのではないかと思います。健康づくりは一人の力だけでは達成できないものであり、多職種との連携が欠かせません。皆様一人一人が持つ専門知識やスキルを活かし、共に地域住民の健康を守り、向上させていくために協力しましょう。これからもお互いに支え合い、共に頑張っていきたいと思っています。